

大久保 規子
法学研究科・教授

【研究】

前年度に引き続き、「環境法の参加原則に係る評価指標の検討-環境民主主義の確立に向けた国際連携構築」(科研S)を研究代表として推進したほか、インドネシアの森林管理と先住民の参加に関する科研Aおよび環境政策史に関する科研Bの研究分担者として共同研究に参加した。その成果を含め、7本の論文等を公表し、7つの国際会議を含め、10以上の学術会議で研究報告を行った。

【教育】

法学部では、複数の行政法の講義科目のほか、とくにゼミの授業時間外の活動にも力を入れ、諫早湾潮受堤防問題に関する自主研究も指導した。また、法学研究科では、大学院生を研究プロジェクトに参加できるように配慮し、プロジェクトの資金を用いて自己の研究調査等を行なう機会を与えた。

【管理運営】

法学研究科では、国際交流室長を務めた。協定関係のほか、奨学金、留学生対応等、迅速な対応を迫られるものや利益調整の難しいものが多かったが、専門職員および関係教員の尽力と迅速な協力により、何とか大きな支障を来すことなく業務を遂行することができた。

【社会貢献】

前年度に引き続き、中央環境審議会委員、大阪府公害審査会委員等として、新たな施策の立案に参加するとともに、適正な紛争処理に寄与することができるように努めた。また、環境法政策学会や日本公共政策学会の理事等として学会の運営に参加するとともに、日本学術振興会学術システムセンター研究員、日本学術会議連携会員として各種事業に従事した。さらに、公開の研究会を開催し、日弁連や各種NGO等が主催する社会変革を目指す講演会等において、研究成果の社会還元を努めた。